



ファイヤー和田より 学生の皆さんへ(授業評価に関して)

大学では、講義に対する評価を取るということで、マークシートなど紙媒体による授業評価アンケートを取ることが行われています。情報工学科では、琉球大学では最も進んだ形として、WEBによる、また学生グループによる、教員と独立した運営の（岡崎先生からの指導はあるが）、授業評価アンケートが取られています。

たぶん、アンケートに答える学生に対して、アンケートの目的の説明がうまくなされていないと思い、このメッセージを作成しています。ずばり、アンケートの目的は何か？それは授業の改善です。学生からのフィードバックを受けて、講義担当が今後の授業の改善を目指すものです。2005年度のアンケートの結果、特に感想（自由意見）の部分を見ていると、率直に講義の改善に結びつく厳しい意見、また率直に講義をほめている肯定的な意見が多数見られ、本来の目的にあった喜ばしい結果が出ていると思います。

しかしながら、中には良くないものも何件かあります。ある先生は、かなり落ち込んだというか、負の大きなインパクトを与えたものもあります。

学生の皆さんにお願いしたいのは、これは、大学の教員と学生の皆さんとのキャッチボールのような活動だと理解してほしい。お互いに玉を投げ合って、相手のコントロールの悪いところや、スピードのないところとか、守備が下手とかを、キャッチボールをやりながら改善してゆく活動です。ぜひ、この改善活動に、協力してほしいです。

相手がまだ初心者で、悪い玉を投げてきたときに、それを痛めつけるような玉を返して、相手に対して前向きの良い影響があるのかどうか？

私からのお願いは、まず心の底から「琉球大学の講義を改善し、今後の後輩たちにより良い教育環境を作っていこう」という前向きな考えを持ってほしい。

そして、教員による講義の改善をうまくやってもらうために、「思いやりのあるコメント」を出すべきだと思います。教員だって、人間であり、腹も立てば、落ち込むこともあり、酒も飲めば喧嘩もする。たとえ本当でも相手を傷つけることを言って、相手の言動や行動を良い方向に変えることはできません。むしろ、マイナスの効果を生みます。それでは、教育改悪になってしまいます。

今回は、授業アンケートというのが、そのような目的であることの説明が、不十分であったので、このようなことが起きたのかと思います。教員側の指導不足で反省することも多々あると思います。もちろん、すばらしい前向きなコメントに対しては教育改善をやるように、学科としてがんばります。今回、こういうことが起きて、所謂「情報倫理」面で、気をつけるべき悪い事例が発生して、逆説的には良い事例になったのかも知れません。今回のことを、お互いに反省して、前向きな結果を今後出して行けるように皆さんにお願いしたいです。

修天爵、人爵従之（同じ行いでも良い心で行なうのと、そうでない心で行なうのとで結果が大きく変わる）